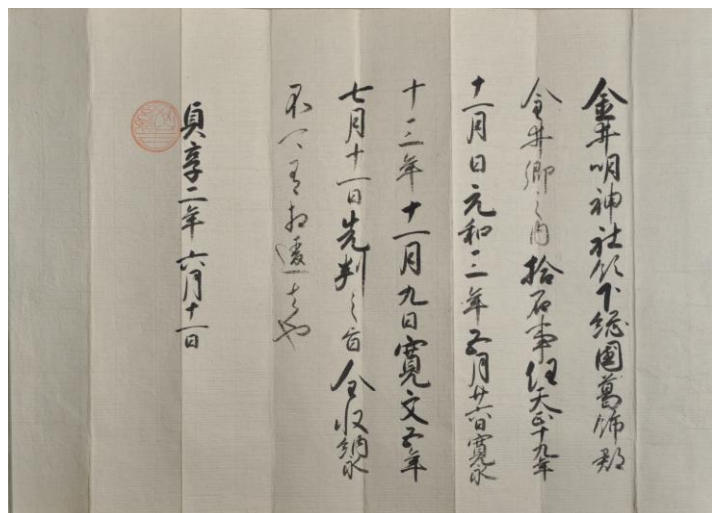


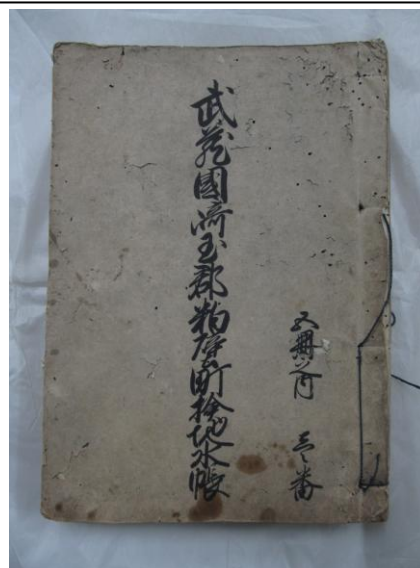
## 春日部市郷土資料館 春季展示（第50回）

「かすかべの宝もの12—読んでみよう！指定文化財の古文書—」展示ガイド

会期：平成27年4月18日（土）～5月17日（日）



徳川綱吉朱印状



武蔵国埼玉郡粕壁町検地水帳

### 展示資料一覧

展示資料数 実物・写真ほか 計 58 点

実物資料 28 点 / 写真ほか 30 点

### あいさつ

郷土資料館は、平成2年に開館して以来、さまざまな企画展示を通じて郷土の歴史・文化を皆様にご紹介してきました。おかげさまで、企画展示の第50回の節目を迎えました。今回は、第50回の企画展示、また新市施行10周年を記念いたしまして、市指定文化財「かすかべの宝もの12—読んでみよう！指定文化財の古文書—」を開催いたします。

地域の国・県・市の指定文化財は、現在、合わせて61件を数えます。このうち、郷土資料館では、寄贈品・寄託品を含め、現在、14件の市指定文化財を収蔵しています。指定文化財は、市の歴史・文化について深く理解するため欠くことのできない、かけがえのない財産です。

今回は、郷土資料館で収蔵する市指定文化財のうちの4件の指定文化財（古文書）を展示いたします。古文書というと、難しい文字・内容をイメージするところですが、今回の展示では、くずし字を読まずとも、古文書の“かたち”や“来歴”などから、郷土の“宝もの”としての価値をわかりやすく紹介しています。皆様には、古文書に親しんでいただき、郷土の先人たちが培ってきた市の歴史・文化に思いをはせ、文化財のもつ歴史的な意義をご理解いただけると幸いです。

最後に本展示会に際しまして、資料の提供・利用に、ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

平成27年4月

春日部市教育委員会 教育長 植竹 英生

## 其の壱 小流寺縁起を読んでみよう

### \*小流寺縁起のプロフィール

いつつくられたの？	めいれき 明暦3年（1657）に執筆されました。
だれがつくったの？	あかやま 赤山（現川口市赤山）に住む人物です。くわしくはわかりませんが、幕府の代官伊奈氏の拠点があったので、関係者かもしれません。
どこにつたわったの？	にしほうしゅばな しょうりゅうじ 西宝珠花の小流寺に伝わりました。小流寺はもともと、かみきつま 上吉妻にあったお寺です。
どうして“お宝”なの？	ゆいしよ 小流寺の由緒が記され、代官伊奈氏の命により江戸川が造られた事、しょうないりょう 庄内領（現庄和地域）に新田が開かれた事などが記されています

- ・指定名称：小流寺縁起（しょうりゅうじえんぎ）
- ・種別：市指定有形文化財（古文書）
- ・指定日：昭和57年12月1日

### \*展示資料 ☆は市指定文化財

- 1 ☆明暦3年（1657） 小流寺縁起 当館寄託
- 2 ☆元禄12年（1699） 閏9月 西金野井香取神社領替地につき覚書 当館寄託
- 3 嘉永元年（1848） 小流寺縁起句読并校訂（写真パネル） 西宝珠花・小流寺所蔵
- 4 慶安3年（1650） 下総国葛飾郡庄内領倉常新田御検地水帳（写真パネル） 原品当館所蔵
- 5 小島庄右衛門坐像（写真パネル） 原品当館寄託

江戸川の開削や庄内領の新田開発に携わった、小島庄右衛門の木像。台座の裏面によれば、宝永8年（1711）江戸の仏師による製作とされる。原品は、現在当館で保管している。

- 6 小流寺本堂（写真パネル） 西宝珠花・小流寺  
「小流寺縁起」よれば、本寺は小島庄右衛門が江戸西照寺の僧玄覚を招き、正保3年（1646）2月に開いたとされる。元は上吉妻に所在したが、昭和28年（1953）江戸川改修工事のため現在地に移転した。
- 7 小島庄右衛門墓（写真パネル） 西宝珠花・小流寺 県指定旧跡

江戸川の開削や庄内領の新田開発に携わった、小島庄右衛門の墓。庄右衛門は、寛文8年（1668）4月28日に没した。傍らには庄右衛門の実弟といわれる小島又十郎重貯（伊奈氏家臣）の墓がある（写真奥）。



小島庄右衛門坐像



小島庄右衛門墓（県指定旧跡）

## 其の式 粕壁宿検地帳を讀んでみよう

### \* 粕壁宿検地帳のプロフィール

いつつくられたの？	5冊は、元禄10年(1697)。ほかに、延享4年(1747)、明和3年(1766)、明和9年(1772)のもの1冊ずつがあります。
だれがつくったの？	検地担当役人(お侍さん)です。粕壁宿の宿役人の立ち合いのもと作成されました。
どこにつたわったの？	粕壁宿(現粕壁地区)の名主の家で管理されていました。
どうして“お宝”なの？	屋敷割や田畑の状況が記録される土地台帳で、江戸時代を通じて参照されました。町の景観や暮らしを復元する基礎資料になります。

- ・指定名称：粕壁宿検地帳(かすかべしゆくけんちちょう)
- ・種別：市指定有形文化財(古文書)
- ・指定日：平成16年6月29日

### \* 展示資料 ☆は市指定文化財

- 1 ☆元禄10年(1697)2月 武蔵国埼玉郡粕壁町検地水帳 五冊之内貳番 当館所蔵
- 2 ☆元禄10年(1697)2月 武蔵国埼玉郡粕壁町検地水帳 五冊之内三番 当館所蔵
- 3 検地之図(安藤博『徳川幕府県治要略』より)(写真パネル) 2 国立国会図書館所蔵

『徳川幕府県治要略』は、幕末に幕府の代官所の下僚・安藤博の著作物。梵天竹や水縄とよばれる検地用具を使って、土地を計測する検地の挿絵である。

- 4 ☆元禄10年(1697)2月 武蔵国埼玉郡粕壁町検地水帳 五冊之内四番 当館所蔵
- 5 ☆元禄10年(1697)2月 武蔵国埼玉郡粕壁町検地水帳 五冊之内五番 当館所蔵
- 7 ☆延享4年(1747)6月 武蔵国埼玉郡粕壁町流作場新田検地帳 当館所蔵
- 8 ☆明和3年(1766)5月 武蔵国埼玉郡粕壁宿新田検地帳 当館所蔵
- 9 ☆明和9年(1772)6月 武蔵国埼玉郡粕壁町検地水帳 当館所蔵
- 10 ☆元禄10年(1697)2月 武蔵国埼玉郡粕壁町検地水帳 五冊之内五番 当館所蔵
- 11 元禄10年「粕壁宿検地帳」における町並の屋敷・名請人一覧(作表パネル)
- 12 昭和7年(1932)1月 安永3年粕壁宿絵図写 当館所蔵

安永3年(1774)当時粕壁宿の名主を勤めた伊藤家に伝わる絵図を、郷土史家が書写したもの。原品は確認されていない。18世紀以前の粕壁宿に関わる史料が乏しいため、宿の成り立ちを考える上でも重要な絵図。

## 其の参 西金野井香取神社領朱印状を讀んでみよう

### \* 西金野井香取神社領朱印状のプロフィール

いつつくられたの？	天正19年(1591)～万延元年(1860)の間、12回にわたってつくられました。
だれがつくったの？	徳川家康～14代将軍家茂(6代家宣・7代家継・15代慶喜を除く)歴代将軍12名です。
どこにつたわったの？	葵の御紋のはいった文箱に入れられ、西金野井香取神社に伝わりました。江戸時代には別当寺の花蔵院が管理していたようです。
どうして“お宝”なの？	市内で朱印状を授かった寺社は、4か所ありますが、歴代将軍12通すべてを授かった寺社は西金野井香取神社のみです。

- ・ 指定名称：西金野井香取神社領朱印状 付 香取神社領替地につき覚書一通、黒漆塗葵紋入り文箱一点  
(にしかなのいかとりじんじやりょうしゆいんじょう つけたりかとりじんじやりょうかえちにつきおぼえがきいっつう、くろうるしぬりあおいもんいりふみばこいってん)
- ・ 種別：市指定有形文化財(古文書)
- ・ 指定日：平成26年3月25日

### \* 展示資料 ☆は市指定文化財

- 1 ☆天正19年(1591)11月 徳川家康朱印状 当館寄託
- 2 ☆元和3年(1617)5月26日 徳川秀忠朱印状 当館寄託
- 3 ☆寛永13年(1636)11月9日 徳川家光朱印状 当館寄託
- 4 ☆江戸時代後期か 黒漆塗葵紋入り文箱 当館寄託
- 5 ☆寛文5年(1665)7月11日 徳川家綱朱印状 当館寄託
- 6 ☆貞享2年(1685)6月11日 徳川綱吉朱印状 当館寄託
- 7 ☆享保3年(1718)7月11日 徳川吉宗朱印状 当館寄託
- 8 ☆延享4年(1747)8月11日 徳川家重朱印状 当館寄託
- 9 ☆宝暦12年(1762)8月11日 徳川家治朱印状 当館寄託
- 10 ☆天明8年(1788)9月11日 徳川家斉朱印状 当館寄託
- 11 ☆天保10年(1839)9月11日 徳川家慶朱印状 当館寄託
- 12 ☆安政2年(1855)9月11日 徳川家定朱印状 当館寄託
- 13 ☆万延元年(1860)9月11日 徳川家茂朱印状 当館寄託

14 徳川氏系図(作図パネル)

15 西金野井香取神社本殿(写真パネル) 西金野井・香取神社 県指定有形文化財

同社本殿は、現在元禄時代(1688-1703)に建てられた覆屋で保護されている。建築様式は、一間社流造り、檜皮葺の和様の小建築であり、軸部は繊細で端正な趣から、室町時代末期の建築ともいわれる。

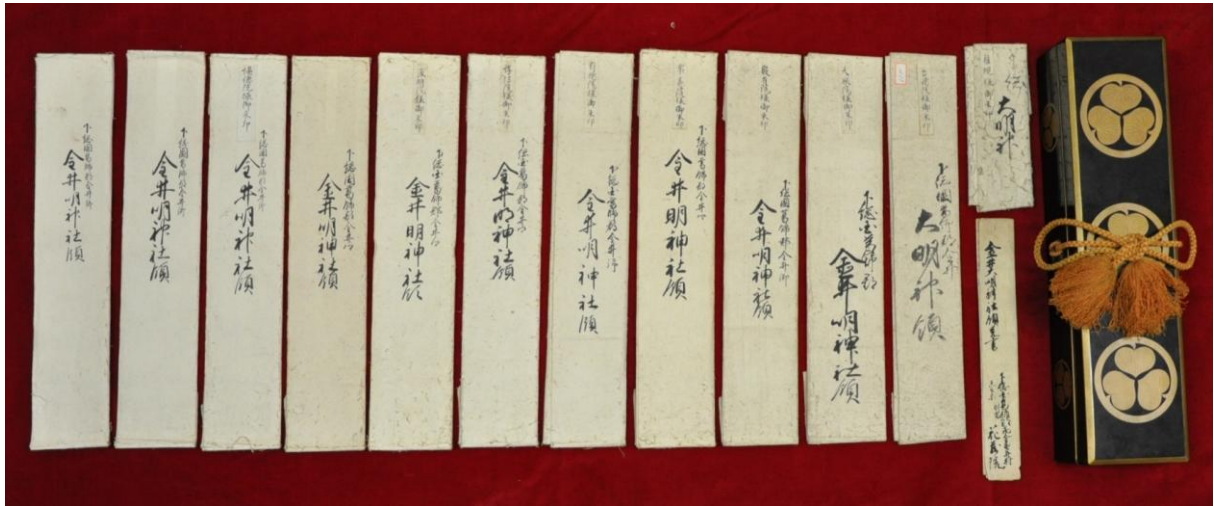
16 西金野井香取神社周辺図(大正5年～昭和27年頃)(作図パネル)

大正、昭和の江戸川の改修工事により、香取神社周辺は大きく景観を変えた。香取神社本殿は、昭和27年(1952)に現在地よりも約100m北方から移転し、同社の別当でもあった花蔵院は、大正5

年（1916）、昭和28年（1953）の2度移転し、今に至る。

17 明治20年（1887）頃か 西金野井村絵図 当館所蔵

西金野井村の河岸問屋<sup>かしどんや</sup>の家に伝わった絵図。西金野井は大正期、および戦後の江戸川改修により、人家や寺院が移転し、現在の景観となっている。本史料から江戸時代以来の西金野井の景観がうかがえ、香取神社（絵図欠損部）の道を隔てたはず向かいに別当の花蔵院<sup>べつとうけぞういん</sup>が所在していた。その東側には「川岸」もみえる。



西金野井香取神社領朱印状 付香取神社領替地につき覚書一通、黒漆塗葵紋入り文箱一点



西金野井村絵図（部分）

## 其の肆 長久記を読んでみよう

### \*長久記のプロフィール

いつつくられたの？	文化11年(1814)から大正11年(1922)の約100年間、2冊にわたり、書き継がれました。
だれがつくったの？	西宝珠花の葉種問屋(葉商)境屋の当主です。5代安右衛門・6代安右衛門が1冊目、7代安右衛門・8代安平が2冊目を記しました。
どこにつたわったの？	西宝珠花の境屋のご子孫のお宅に伝わりました。
どうして“お宝”なの？	江戸川の河岸場として栄えた西宝珠花の出来事や、町場・商家の生活に関することが記録され、河岸場の歴史・民俗の基礎的な資料になります。

- ・指定名称：長久記(ちょうきゅうぎ)
- ・種別：市指定有形文化財(古文書)
- ・指定日：平成25年3月25日

### \*展示資料 ☆は市指定文化財

1☆文化11年(1814)～明治4年(1871) 長久記(第一冊) 当館寄託

2☆明治8年(1875)～大正11年(1922) 長久記(第二冊) 当館寄託

2 元治元年(1864)5月 水戸浪士金子借用証文 当館所蔵

水戸浪士の千葉小太郎らが、西宝珠花の商家釜屋新蔵から61両余を借用した証文。千葉らは天狗党と呼ばれ、この頃大平山(栃木県栃木市)に駐屯し、攘夷決行のための軍資金を各地で調達した。「長久記」によれば、西宝珠花の商人は、資金の提供を一度断ったが、脅迫され、合計1800両もの軍資金を出費した。「長久記」の著者芝田安右衛門は、浪士を恐れ、町が静まる様子を、「町内淋しく是騒乱也」と記しています。

3 長久記(第二冊)表紙(写真パネル) 原品展示中

第一冊は表紙・裏表紙が欠損しており、題名は不詳である。第二冊目の表紙より二冊合わせて「長久記」と呼ばれるようになった。なお、裏表紙には、「境屋安右衛門」とある。

4文化14年(1817) 徳本上人名号塔(写真パネル) 西宝珠花・清岸寺

「長久記」にみえる「御十念御説法」に関わって建立された徳本上人の名号塔。名号塔とは、念仏「南無阿弥陀仏」を彫った石塔。台石に発願主として西宝珠花・東宝珠花の54名の名が刻まれ、芝田安右衛門の名もみえる。

5文政3年(1820)刊 徳本上人行状和讃 国立国会図書館所蔵

徳本(1758-1818)は、江戸時代中期の浄土宗の僧。諸国を行脚し、庶民を対象に念仏の教えを説いてまわった。各地に特異な筆跡を刻んだ名号塔が建立されている。「南無阿弥陀仏」の筆跡は徳本上人のもので、その独特な字体から、「徳本文字」「蔦文字」などと呼ばれた。花押には「鬼くたく心を丸く 田の中に南無阿弥陀仏と 月のおもかげ」という含意があるという。

6明治6年(1873)9月 西宝珠花村絵図(複製) 原品個人蔵

地租改正に関わって作成されたものとみられる絵図。西宝珠花は、江戸川沿いの道に短冊状の地割りに屋敷が立ち並ぶ町場であった。複数の屋敷地を持つ者もみえ、大店のみならず、店借・地借のミセもあったこと河岸の町として賑わう様子がうかがえる。町の西方には、畑地が広がり、土地の

多くは大店層が所持していた。「長久記」の著者境屋の屋敷もみえる。



文政3年（1820）刊 <sup>ぶんせい</sup> 徳本<sup>とくほん</sup>上人<sup>しやうにん</sup>行状<sup>ぎやうじやう</sup>和讃<sup>わさん</sup> 国立国会図書館所蔵

## たいけんこーなー 古文書とともにだちになろう！

- 1 読めますか？春日部の昔の地名（パネル）
- 2 読めましたか？春日部の昔の地名（パネル）
- 3 【市指定有形文化財】西金野井香取神社領朱印状 12 通と歴代将軍の朱印（パネル）
- 4 歴代将軍朱印スタンプ 12